

復興支援フォーラムニュース No.93

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

=====

生協組合員目線での被ばく調査について

野中俊吉 (コープふくしま専務理事)

1、コープふくしまについて

- ① 皆様の多くがコープふくしまに加入しご利用いただいていますこと感謝しています。
- ② コープふくしまは、中通り地方と浜通り地方を中心に事業をしています。供給高（売上高）は年間210億円で、店舗事業が120億円、共同購入事業が90億円です。他に住宅事業と旅行事業も行っています。また100%出資の子会社として豆腐工場と保険会社を運営しています。
- ③ 組合員(会員)は18万5千世帯強で、事業エリアの全世帯数55万の3分の1程度がコープふくしまに加入しています。
- ④ 福島県には他にコープあいづ、福島県南生協、パルシステム福島、あいコープという購買生協があります。因みにコープふくしまは県内最大の購買生協です。

2、震災と原発事故を受けて倒産の強い危機意識

- ① コープふくしまは累損を抱えた生協です。要因は内的には過去の過大投資とワンマン経営があり、外的にはバブル崩壊以降引き続く景気低迷です。
- ② 2010年度2億円弱の黒字決算を見通していましたが、震災と原発事故で特別損失が加わり、累損は55億円まで膨らみました。
- ③ 震災で11店舗中9店舗が甚大な被害を受け通常営業が不可能となり、放射能汚染の下で店頭営業を余儀なくされました。共同購入事業は物流の麻痺により3週間の営業不能状態に陥り、日銭が入ってこないのに支払いが出来るかどうかと夜も眠れない日々を過ごしました。
- ④ 幸い、全国の生協からの支援により資金的な心配は解消されました。現時点（原発事故後4年間）で累損を38億円まで17億円も縮小させることができています。

3、組合員の不安に寄り添いながら放射能汚染問題に向き合うことしか道が無い

- ① 原発事故の放射能汚染で、相双地区では7割もの組合員が減少し、いわき地区では5割の組合員が減少しました。中通り地方でも多くの組合員が他県に避難して行きました。
- ② コープふくしまでは毎月1回のコープ委員会という基礎組織を通して日常活動をしてきましたが、いくつものコープ委員会が解散状態になってしまいました。
- ③ 避難した組合員も大勢いるが、避難しない（できない）組合員は圧倒的多数ですから、組合員の不安に寄り添い放射能汚染問題に向き合うことしか道は無いと考えました。

4、組合員と共に放射能汚染に向き合った4年間の取り組み

- ① 原発事故1ヵ月後から組合員対象に放射能学習会を開き、ガラスバッジによる外部被ばく調査、実際の食事に含まれるセシウム量の調査、ホールボディカウンターによるセシウム体内蓄積量調査、全国各地の生協組合員の協力を得た新型測定器による外部被ばく比較調査に取り組んできました。
- ② その他にも「仮設住宅でのサロン活動200回」「全国からの被災地視察等の対応200回」「福島県産農産物を買う支える取り組み4年間」「除染ボランティア活動」「損害賠償請求」などにも取り組んできました。

5、特に、組合員参加で取り組んできた一連の被ばく調査について

- ① 最初の放射能学習会・・・放射能は怖いが理性的に怖がる大切さ、個人の物差しによる怖がり方の尊重。
- ② 急いで取り組んだガラスバッジによる外部被ばく調査(自治体にもコープが斡旋)。
- ③ 実際の食事に含まれるセシウム量の調査(4年間で述べ600家庭が参加)・・・全国の生協が必要経費の支援。
- ④ 新型線量計(日別時間帯別の線量が記録される)による全国外部被ばく比較調査(北海道から九州までで約500名の協力あり)。
- ⑤ 被ばく調査を通しての避難先から帰還された人へのお手伝い(自分流の物差し作りのお手伝い)

6、汚染水対策委員会のトリチウム水小委員会に関わって知ったこと感じること

- ① 実用原子炉からのトリチウム水の告示濃度(排出基準)は“60000Bq/L”と知った時の衝撃。
- ② 世界的事例でも手に負えないトリチウム水・・・スリーマイル島では事故10年後に大気中に蒸発させた。
- ③ トリチウム水小委員会で1年以上処理技術に関して検討しているが。
- ④ 全ベータ値、告示濃度比およそ10倍までしか浄化されない浄化設備機能(今は改善されたかどうか?)

7、現時点での私の結論

- ① 生協倒産の危機を招くような原発は恨み以外の何物でもない。
- ② 事故当日2130円の東電株価は現在480円(事故直後は150円くらいまで下落)、これは経済行為として成り立たないということではないか?
- ③ 福島第一原発事故処理費用は11兆円とか。計算すると同規模原発を40年間稼動しても事故費用が賄えないのが原発の経済性。
- ④ 福島県が住めること、福島県産物が食べられることと原発の賛否は区別すべき。
- ⑤ 私は原発大反対。

第90回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

4月23日、福島市A O Zで、第90回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

今回は、中村秀夫氏（ジャーナリスト）から、「福島県双葉郡の小中学校の『ふるさと創造学』～避難校に広がる実践の試み」について、報告をいただきました。

活発な質疑応答がなされましたが、会場で文書提出されたご意見等は、以下の通りです。

~~~~~

★ たいへん長い時期を細やかなご経験とお話をいただき、本当に勉強になりました。ありがとうございました。（M.K）

★ 「ふるさと創造学」は、前々から注目していました。子どもたちは、はかりしれない身につけていると感じました。小高町のことを質問しましたが、合併のことが関わっているなと思いました。（Y.I）

★ 教育問題としても、今回の事件は大きな問題を投げかけていることを示していると思いました。むずかしい問題ですね。（S.M）

★ 非常に刺激的で生産的芽をもつ豊富な材料を提供してもらった。講師の説明も明快で、よく整理紹介されていた。／有益な報告で、講師の姿勢・視点にも感じさせられた。（S.I）

★ 多くの学校を訪ね歩いて、たくさんお実践例を見聞されていることがよく分かりました。（K.M）

★ ていねいな取材に基づくお話で、大変勉強になりました。中村さんの子ども達を見る目、子どもの力を信頼する態度に感服です。（S.M）

★ 原発事故により避難されている双葉郡出身の子供達による学習活動の現状を知ることができ。感謝いたしております。また、新たな教育システム「ふるさと学習」の中で、育っていく子供達の将来（人間形成、人格形成）に大きな期待が感じられます。（K.F）

★ 双葉の子ども達が、どんな生活をしているかよくわかった。丁寧な取材の結果が伺えた。／「ふるさと創造学」の学習の目的が、帰還促進運動ではなく、学習である点はよい視点であり、心強く思った。（M.S）

~~~~~  
【予告】第92回フォーラム 2015年5月28日(木) 18:30~20:30

「県内商工業の復興の現状と課題 ~営業損害賠償問題にも触れて~」

報告者: 佐藤 敏文 氏 (福島県商工会連合会広域指導課長)

会 場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室 1
~~~~~

【予告】第93回フォーラム 2015年6月10日(水) 18:30~20:30 【日程変更・要注意】

「原発事故被災地における復興まちづくり計画」

報告者: 間野 博 氏 (県立広島大学名誉教授

・うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員/都市計画)

会 場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」視聴覚室  
~~~~~

【予告】第94回フォーラム 2015年6月25日(木) 18:30~20:30

「県内水産業の現状と課題」

報告者: 遠藤 和則 氏 (前相馬双葉漁業協同組合本所部長)

会 場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室 1
~~~~~

【予告】第95回フォーラム 2015年7月9日(木) 18:30~20:30

「震災報道の現場から ~伝える事の大切さ、伝える事の素晴らしさ」

報告者: 大和田 新 氏 (フリーアナウンサー)

会 場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室 1  
~~~~~

【予告】第96回フォーラム 2015年7月22日(水) 18:30~20:30

「放射能汚染と樹園地および山岳生態系

~山岳愛好家・果樹研究者として係った福島大原発事故」(仮題)

報告者: 佐藤 守 氏 (高山の原生林を守る会代表)

会 場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」視聴覚室
~~~~~

【予告】第97回フォーラム 2015年8月6日(木) 18:30~20:30

「相双地域におけるメンタルヘルスケアの取り組み」

報告者: 丹羽 真一 氏 (福島県病院事業管理者、

福島医大・会津医療センター 精神医学講座 特任教授)

会 場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」視聴覚室  
~~~~~

【予告】第98回フォーラム 2015年8月20日(木) 18:30~20:30

「居住支援協議会 震災被災者の住宅再建と高齢者等の地域見守り」

報告者: 斎藤 隆夫 氏 (福島県居住支援協議会事務局長、

一般社団法人 福島建築安全機構 専務理事)

会 場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室 1